

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭62-94447

⑮ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)4月30日

B 60 R 11/02

7443-3D

B 62 J 39/00

6862-3D

H 04 B 1/38

7251-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 自動二輪車用無線装置

⑯ 特 願 昭60-234059

⑰ 出 願 昭60(1985)10月18日

⑱ 発 明 者 小 林 正 典 浜松市佐藤町433-1  
⑱ 発 明 者 林 典 男 静岡県磐田郡竜洋町海老島787  
⑲ 出 願 人 ヤマハ発動機株式会社 磐田市新貝2500番地  
⑳ 代 理 人 弁理士 下 市 努

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

自動二輪車用無線装置

## 2. 特許請求の範囲

(i) 自動二輪車に搭載され、トークスイッチを  
押圧した状態で送信するようにした無線装置にお  
いて、上記トークスイッチをハンドルの左側グリ  
ップ内側に配設された左スイッチケースの進行方  
向前部に設けたことを特徴とする自動二輪車用無  
線装置。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、自動二輪車に搭載された無線装置に  
関し、特にそのトークスイッチの操作性の改善に  
関する。

(従来の技術)

最近の自動二輪車には、CB(市民バンド)無  
線機等の無線装置を搭載したものがあり、この無  
線装置では、送信する場合はトークスイッチを押  
圧し、この状態でマイクに向かって話すこととな

る。このトークスイッチは従来、ハンドルの左側  
グリップ内側に配設するようにしている。

一方、ハンドルの左側グリップ内側には、ター  
ンスイッチ、ホーンボタン等の自動二輪車本来の  
機能スイッチを集中的に設けた左スイッチケース  
が取り付けられている。従って、上記トークスイ  
ッチをハンドルに取りつける場合は、上記機能ス  
イッチの操作の邪魔にならない位置に取り付ける  
必要がある。そこで上記従来の装置では、トーク  
スイッチを左スイッチケースのさらに内側に、あ  
るいはトークスイッチの上方に配設された遠隔操  
作用ボックスに配設していた。

(発明が解決しようとする問題点)

上述のように、トークスイッチは送信中はこれ  
を押圧してオンさせるものであるから、交信中は  
指で押圧したり、指を離したりという動作を頻繁  
に繰り返す必要がある。従ってこのトークスイッ  
チはハンドルを把持したままでも操作し易い位置に  
取り付けるのが望ましい。しかしながら上記従来  
装置では、トークスイッチは左スイッチケースの

さらに内側あるいは上方に配設されているので、ハンドルを把持したままの状態では、トークスイッチに親指が届きにくく、操作の都度ハンドルから手を浮かしたり、あるいは離したりする必要があり、結局この従来装置はトークスイッチの操作性が悪いという問題があった。

一方、上記左スイッチケースにトークスイッチを配設すれば操作し易くなると考えられるが、この左スイッチケースには上述のように、多くの機能スイッチが設けられているので、トークスイッチを設けるスペースを得るのは困難である。

本発明はこのような従来の問題点を解消するためになされたもので、トークスイッチの操作性を大きく向上できる自動二輪車用無線装置を提供することを目的としている。

#### 〔問題点を解決するための手段〕

本発明者は、従来の左スイッチケースにおいては、上記機能スイッチを該左スイッチケースの上面及び進行方向後側に配設しているが、これは親指による操作を前提としているからである点に着

目し、従って親指による操作にこだわることなく、例えば人差し指での操作を前提とすれば、上記左スイッチケースにもトークスイッチを取り付けるだけのスペース的余裕は残っている点に想出したものである。

そこで本発明は、自動二輪車用無線装置において、トークスイッチを左スイッチケースの進行方向前部に設けたことを特徴としている。

ここで、本発明における無線装置とは、CB無線機、アマチュア無線機等の自動二輪車に取り付けられ、送信時トークスイッチを押圧するようにした無線機をいい、また左スイッチケースの前部とは該ケースの前面、上面前側等のハンドルグリップを把持した状態で人差し指の届く範囲をいう。

#### 〔作用〕

本発明に係る自動二輪車用無線装置では、ハンドルグリップを把持したまま人差し指を伸ばせば、容易にトークスイッチに届くので、該トークスイッチの押圧操作が容易確実であり、全体として

3

の操作性が向上する。またこの場合、トークスイッチを左スイッチケースの機能スイッチが元々設けられていない部分に配設したから、自動二輪車本来の機能スイッチの操作に支障が生じることもない。

#### 〔実施例〕

以下、本発明の実施例を図について説明する。

第1図ないし第4図は本発明の一実施例による自動二輪車用CB無線装置を示す。図において、1は自動二輪車であり、これの車体2の略中央にはエンジン2aが搭載され、前部には前輪2bを支持するフロントフォーク2cが、後部に後輪2dを支持するリヤアーム2eがそれぞれ枢支され、また上部にはシート2fが搭載されている。

上記フロントフォーク2cの上端にはハンドル3が取り付けられており、このハンドル3の右端には内方に順にアクセルグリップ4、右スイッチケース5、ブレーキレバー6等が装着されている。また、ハンドル3の左端には内方に順にハンドルグリップ7、左スイッチケース8、クラッチレバ

4

ー9等が装着されている。

上記左スイッチケース8には、進行方向後面、つまり手前側にホーンボタン10、方向指示灯切換スイッチ11が配設され、また上面には前照灯を上向、下向に切り換えるためのハイロースイッチ12が配設され、これらの各スイッチ10～12は配線により各装備品に接続されている。そして、この左スイッチケース8の前面には、CB無線装置のトークスイッチ13が配設されている。このトークスイッチ13は無線機本体に接続されており、押圧したときオンし、該押圧状態でマイクに向かって話せば送信できる。

また、上記左スイッチケース8の少し内方には、操作ボックス14が配設されており、これはCB無線機本体及びオーディオ装置を遠隔操作で所定の交信状態あるいは音響状等に調整するためのものである。

第3図は本実施例のCB無線装置20のブロック構成を示し、21は電源に接続されたCB無線機本体であり、これにはアンテナ22、マイク2

5

6

3. スピーカ24が接続され、また上記C B無線機本体21とアース間に上記トークスイッチ13が接続されている。

次に本実施例装置の作用効果について説明する。

本実施例装置において、発信する場合は、まず、C B無線機本体21をオンし、上記操作ボックス14によって送局、音量調整等の操作をする。そして発信相手をキャッチでき、これに送信するときは、ハンドル3のハンドルグリップ7を左手で把持したままで左人差し指を伸ばせば、容易にトークスイッチ13に届くから、そのまま該スイッチ13を手前側に押圧し、この状態でマイク23に向かって話せばよい。

このように本実施例では、トークスイッチ13を左スイッチケース8の前面に配設したので、ハンドルグリップ7を把持したままでトークスイッチ13を押圧でき、送信の都度左手をグリップから少し浮かしたり、あるいは手を離したりする必要はなく、操作性を向上できる。

なお、上記実施例ではトークスイッチ13を左

スイッチケース8の前面に設けたが、これは左スイッチケース8の前面に限らず、上面前側等の自動二輪車本来の機能部品が元々設けられておらず、かつハンドルグリップ7を把持したままで左人差し指が届く範囲であればよい。また上記実施例ではC B無線装置について説明したが、本発明はアマチュア無線機等の送信時トークスイッチを押圧するようにした無線装置であれば適用できる。

(発明の効果)

以上のように本発明に係る自動二輪車用無線装置によれば、トークスイッチを左スイッチケースの前面に配設したので、ハンドルグリップを把持したままで左人差し指でトークスイッチを押圧でき、操作性を向上できる効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

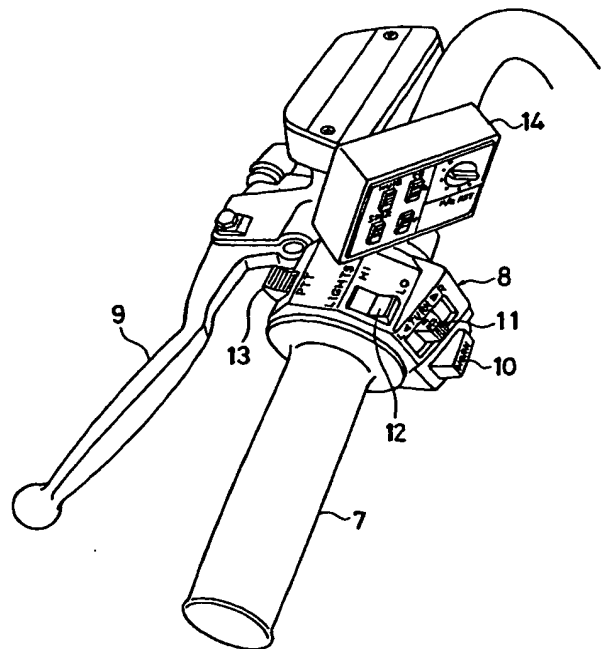
第1図は本発明の一実施例による自動二輪車用無線装置のトークスイッチ部分の斜視図、第2図は上記実施例が適用されたハンドルの平面図、第3図は上記実施例のブロック構成図、第4図は上記実施例が適用された自動二輪車の側面図である。

7

8

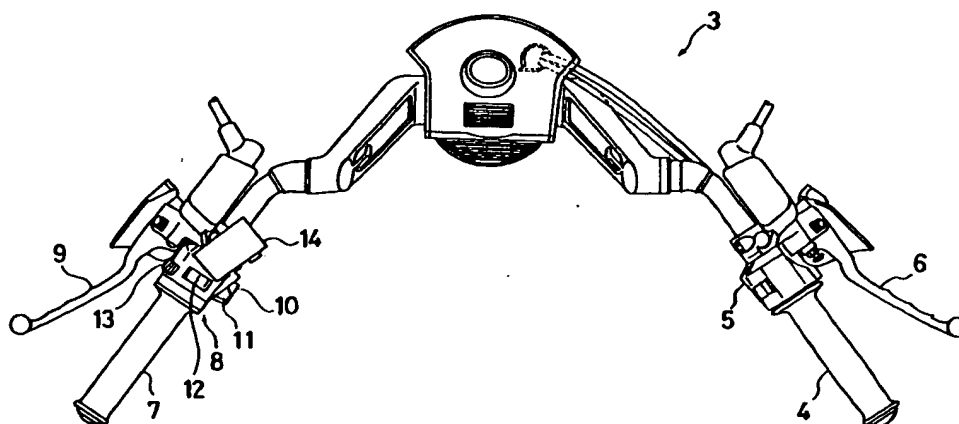
図において、1は自動二輪車、3はハンドル、7はハンドルグリップ(左側グリップ)、8は左スイッチケース、13はトークスイッチ、20はC B無線装置である。

第1図

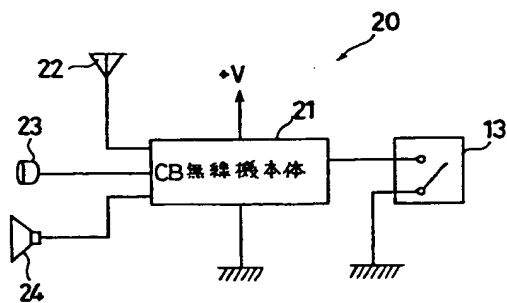


特許出願人 ヤマハ発動機株式会社  
代理人 弁理士 下市 努

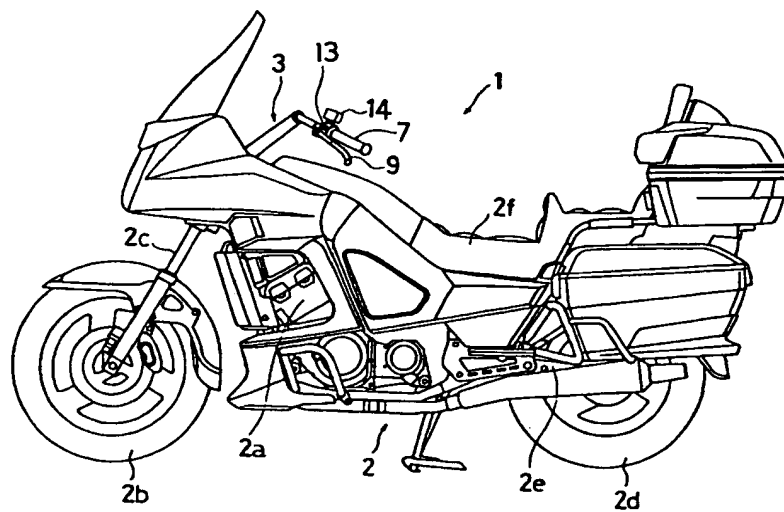
第 2 図



第 3 図



第 4 図



**DERWENT-ACC-** 1987-160138

**NO:**

**DERWENT-** 198723

**WEEK:**

*COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD*

**TITLE:** Radio transceivers device for motorcycle - provides press-to-talk switch inside left  
handle bar grip end NoAbstract Dwg 1/4

**PATENT-ASSIGNEE:** YAMAHA HATSUDOKI KK[YMHA]

**PRIORITY-DATA:** 1985JP-0234059 (October 18, 1985)

**PATENT-FAMILY:**

<b>PUB-NO</b>	<b>PUB-DATE</b>	<b>LANGUAGE</b>	<b>PAGES</b>	<b>MAIN-IPC</b>
---------------	-----------------	-----------------	--------------	-----------------

JP 62094447 A	April 30, 1987	N/A	008	N/A
---------------	----------------	-----	-----	-----

**APPLICATION-DATA:**

<b>PUB-NO</b>	<b>APPL-DESCRIPTOR</b>	<b>APPL-NO</b>	<b>APPL-DATE</b>
---------------	------------------------	----------------	------------------

JP 62094447A	N/A	1985JP-0234059	October 18, 1985
--------------	-----	----------------	------------------

**INT-CL (IPC):** B60R011/02, B62J039/00 , H04B001/38

**ABSTRACTED-PUB-NO:**

**EQUIVALENT-ABSTRACTS:**

**TITLE-** RADIO TRANSCEIVER DEVICE MOTORCYCLE PRESS TALK SWITCH LEFT  
**TERMS:** HANDLE BAR GRIP END NOABSTRACT

**DERWENT-CLASS:** Q17 Q23 W02 X22

**EPI-CODES:** W02-G02; X22-N; X22-X02;